

西大塚古墳

にしおおつかこふん



文化財愛護シンボルマーク

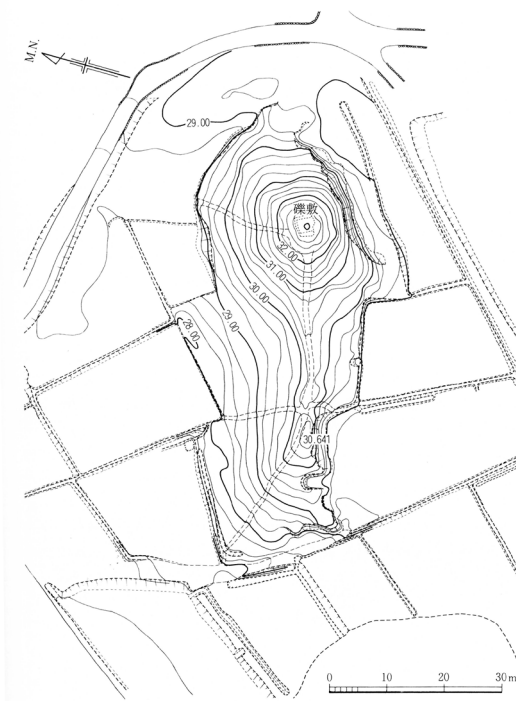
名称	西大塚古墳	所在地	加古川市加古川町大野 日岡山公園
旧称	<small>ともえづか</small> 轅塚、赤塚		地内（加古川町大野 1711 番地の 6
数量	1 基		及びその隣接地の一部）
形態	前方後円墳	管理者	加古川市
規模	全長約 74 m、後円部径約 40 m、 前方部長さ約 34 m、後円部高約 3.5 m、 前方部高約 1.5 m	指定	加古川市指定文化財
時代	古墳時代前期／4 世紀	指定分類	史跡
		指定名称	南大塚古墳及び西大塚古墳
		指定年月日	令和 6（2024）年 3 月 7 日



西大塚古墳

西大塚古墳は、^{ひおかやま}日岡山古墳群を構成する主要古墳のひとつで、古墳時代前期に築かれたと考えられている5基の^{ぜんぽうこうえんふん}前方後円墳のうちのひとつです。日岡山公園の一角にあり、古墳群中最大の規模を誇る南大塚古墳（前方後円墳）の北側に隣接しています。

古墳は、一帯が公園化される前から開墾等による損壊を被っており、墳丘は大きく削られています。現況での全長は約74m、後円部の直径は約40mですが、本来はもう少し大きかったと考えられます。前方部を南西に向けて築かれており、高さは前方部側で約1.5m、後円部側で約3.5mと非常に低く、墳丘全体が削平を受けていることがわかります。なお、^{しゅうこう}周濠は完全に埋没していて、現況では確認することができません。



墳丘測量図（公園整備前）



後円部中央の石敷

これまで本格的な発掘調査が実施されたことはありませんが、昭和期に実施された周濠部分における確認調査で少量の^{えんとうはにわ}円筒埴輪片が出土しています。このことから、少なくとも埴輪を樹立した古墳であったことがわかります。葺石の有無については明らかにされていません。^{まいそう}埋葬施設については、大部分が削平によりすでに失われていますが、後円部中央に2.5m×3.4mほどの範囲で^{れき}小礫が確認されており、^{ぼこう}墓壇底面に敷かれた排水のための礫敷である可能性が指摘されています。

築造の時期は、古墳時代前期後半頃（4世紀後半）とされ、隣接する南大塚古墳に近い時期と考えられています。南大塚古墳より規模が小さく、周辺からの見通しがやや劣る場所に築かれています。

西大塚古墳は、墳丘の残りが悪く不明な点が多いものの、播磨地域を代表する日岡山古墳群を構成する前方後円墳のひとつで、他の古墳とともに当時の加古川下流域の様相を考える上で欠かすことのできない古墳といえます。

（図／『加古川市史』より転載、文・写真／山中）

●参考文献

上田哲也「兵庫に於ける周濠を備える前方後円墳の変遷」『兵庫史の研究』神戸新聞総合出版センター（1985年）『加古川市史 第4巻』加古川市（1996年）

●キーワード 西大塚古墳 南大塚古墳 日岡山古墳群 前方後円墳 周濠 円筒埴輪 埋葬施設

●所在地 兵庫県加古川市加古川町大野 日岡山公園地内（加古川町大野1711番地の6及びその隣接地の一部）

●交通 JR加古川線「日岡」駅から南東へ徒歩15分

